

リウマチと上手に つきあうために トラブル時の対応



風邪?



带状疱疹?



お薬の対応は?

監修：前島 圭佑 先生

医療法人慈恵会西田病院 リウマチ・膠原病内科 部長

はじめに

関節リウマチを発症すると関節に痛みや腫れが生じ、
生活の質が著しく低下してしまいます。

かつては治療法が確立されていなかったために
病状が進行すること多かったのですが、
新しい薬の登場により治療が進歩し、
寛解（病状が完全にコントロールされた状態）を目指すことが
可能になっています。

しかし、そのためには患者さんご自身による心がけも欠かせません。
病気や薬のことを深く理解する必要はありませんが、
「病気とのつきあい方」については
最低限の知識を身に付けておくことが望めます。

本シリーズ「リウマチと上手につきあうために」では、
まさにその具体的な方法の一端として、
日常生活での注意点や、
外来受診時の病状の伝え方などをご紹介します。

皆様の生活の質の改善に向けて、
本冊子が少しでもお役に立てたら幸いです。



トラブル時の対応

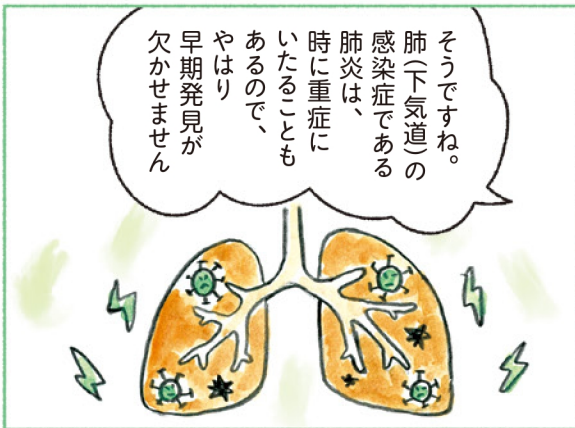
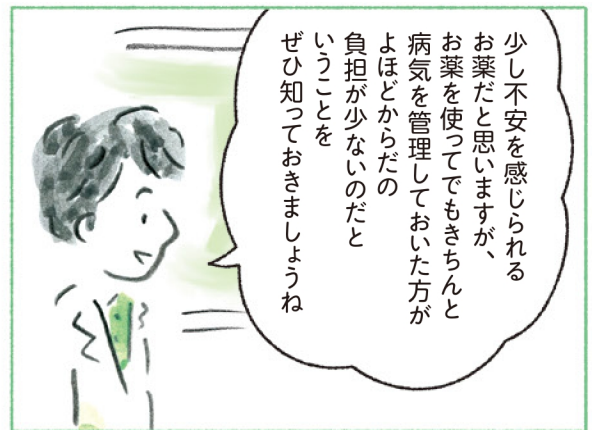
清水菊江さんのプロフィール

64歳。専業主婦。
7年前にリウマチを発症。
現在は抗リウマチ薬で治療中。













医療機関名

ファイザー株式会社